

株式会社クラレ「2023 年度第 3 四半期決算説明会」質疑応答要旨

日 時 2023 年 11 月 9 日（木） 13:00～14:00
 場 所 ㈱クラレ 本社 ※電話会議にて実施
 説明者 取締役・常務執行役員 経営企画室担当 多賀 敬治
 常務執行役員 イソプレンカンパニー長 尾松 俊宏
 IR・広報部長 滝沢 慎一

1. 主要製品の数量伸長率

	23 年上期実績 →23 年下期見通し	22 年通期実績 →23 年通期見通し
光学用ポバールフィルム	+10%強	+15%弱
水溶性ポバールフィルム	+15%強	▲5%強
PVB	▲5%強	若干マイナス
〈エバール〉	▲10%弱	▲10%弱
ポバール樹脂	+約 5%	▲約 20%
エラストマー	若干マイナス	横ばい
〈ジェネスタ〉	若干マイナス	横ばい
活性炭	+約 5%	若干マイナス
ビニロン	▲約 10%	▲約 10%

2. 質疑応答

- Q1 通期業績予想を下方修正した背景について。
- A1 今回の公表で営業利益予想を合計 60 億円下方修正した。
 ビニルアセテートセグメントについては、ポバール樹脂で 3Q から 4Q にかけて需要減に対応した大幅な減産を行う影響が大きいことなどから 10 億円下方修正した。
 イソプレンセグメントは、販売不調による数量減に加え、タイの新プラントで設備上の不具合がいくつかあり、7 月に実施した定期修理を 1 か月程度延長して対応を行った。不具合対応費及び停止期間固定費が増加したため、20 億円下方修正した。
 機能材料セグメントについては、メディカルの歯科材料、活性炭は堅調であったものの、メタアクリルの販売不振により 5 億円下方修正した。
 繊維セグメントは、ビニロンの欧州建築用途が低迷し 10 億円下方修正した。それ以外はその他、調整で共通の燃料価格の影響などにより利益を引き下げている。
- Q2 イソプレンセグメントのタイ新プラントの定期修理、稼働状況について。
- A2 プラント稼働後、初めての定期修理であり想定外の不具合が発生した。期間は 7 月の一か月間を予定していたが、不具合の調整により 8 月まで延長となった。また、定期修理後の設備の立ち上げがスムーズにいかず、3Q の稼働日数は限定的なものとなった。

フル稼働になる時期については、イソプレンケミカル、エラストマー、〈ジェネスタ〉の3事業でばらつきはあるものの、概ね2年後から3年後にかけてフル稼働にすべく取り組みを進めている。

なお、今回の定期修理に係る費用は全て営業費用として処理している。

Q3 ビニルアセテートセグメントの主要製品の状況について。

A3 ポバール樹脂は、当社が力を入れている高付加価値品を含めて需要が落ちており、需要環境を踏まえて4Qに生産調整を実施する。

〈エバール〉については、自動車ガソリントank用途は半導体不足による自動車生産減からの回復が順調に進んでいるが、2Qまで好調だった食品包装用途は3Qから需要が軟調になっている。インフレが進んだことによる小口買いや買い控えなどで需要が低下したものと推定している。

光学用ポバールフィルムは、3Qの実績は予定よりも上振れた。ただし、テレビを始めとした大型液晶ディスプレイの最終需要が完全に回復したとは捉えていない。最終需要が徐々に回復する中、サプライチェーン内の各メーカーが積極的に原料調達、生産に動いた結果であると考えている。年間の出荷数量は前回の予想と同程度と見込んでいる。

Q4 環境ソリューション事業の活性炭の需要動向、米国の新製造設備の稼働予定、有機フッ素化合物（PFAS）除去用途の状況について。

A4 活性炭の需要及び市場の見方には大きな変化はなく、事業環境は堅調である。米国の新製造設備は、10月頃の立ち上げを見込んでいたが設備の調整が遅れており、現在は年内の立ち上げを目指している。結果として、今年度の業績への貢献は見込めない状況となった。

PFASについては将来的な需要拡大に期待しているが、規制開始のタイミングから数年間の移行期間の設定が想定されるため、来年すぐに需要が増えるとは考えていない。ただし、全体的な引き合いは増えており、時流に乗った製品との見方は変えていない。

Q5 各セグメントにおける減産影響について。

A5 製品としては、ポバール樹脂とイソプレン各製品の減産影響が大きい。繊維においても需要が低調なビニロンの減産を実施している。ポバール樹脂の減産による損失は、来期には繰り越されずに今期中に会計処理される。従い、来期への影響は限定的である。

Q6 〈エバール〉、及び水溶性ポバールフィルムの販売の回復時期について。

A6 来期計画の策定はこれからであり明確なことは言えないが、これらの製品の販売減はインフレによる需要減に起因していると推定しており、世界的な景気回復に伴い需要も増加に転じると考えている。

Q7 〈エバール〉の中長期的な成長性について。

A7 〈エバール〉は、その高いガスバリア性、リサイクル性が評価されており、食品包装材料におけるサーキュラーエコノミー、食品の長期保存、フードロス削減に貢献している。この大きな流れに変わりはなく、エバールは今後も成長すると考えている。

以上

注意事項

本資料は、説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、理解しやすいように当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性 があることをご了承ください。